

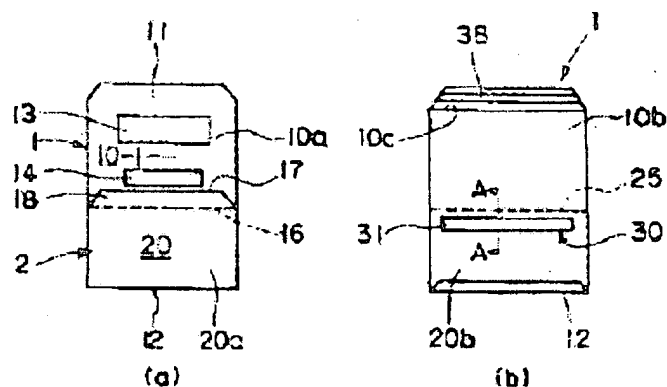
ENVELOPE HAVING RETURN ENVELOPE PORTION

Patent number: JP2001122287
Publication date: 2001-05-08
Inventor: MINATO MASANORI
Applicant: MINATO MASANORI
Classification:
- international: B65D27/06; B65D27/00
- european:
Application number: JP20000245562 20000814
Priority number(s):

Abstract of JP2001122287

PROBLEM TO BE SOLVED: To allow a used envelope to be used for re-sending, in particular to insure easy sealing for reuse and to suppress contact with other documents during mailing.

SOLUTION: A bottom 12 of an envelope 1 including a body 10-1 and a flap 11 is used in common to form a return envelope portion 12 in the body 10-1. The envelope portion 2 includes a return body 20, and a flap 18 defined by a cut line 17 and creases 16, 25. An adhesive is applied on a surface of a back 20b of the portion 2 which comes into contact with the flap 18 when it is folded, and a piece of release paper 31 is stuck to cover the adhesive, thereby constituting the return envelope portion 2.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-122287
(P2001-122287A)

(43)公開日 平成13年5月8日(2001.5.8)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

FI

テーマコード・(参考)

B 6 5 D 27/06

B 6 5 D 27/06

A

27/00

27/00

D

審査請求 未請求 請求項の数 9 O.L. (全 12 頁)

(21)出願番号 特願2000-245562(P2000-245562)

(22) 出願日 平成12年8月14日(2000.8.14)

(31)優先権主張番号 特願平11-232020

(32) 優先日 平成11年8月18日(1999.8.18)

(33)優先権主張国 日本(JP)

(71)出題人 596080813

海 正則

栃木県宇都宮市若草3丁目6-26

(72) 發明者 湊 正則

栃木県宇都宮市若草 3 丁目 6-26

(74) 代理人 100082876

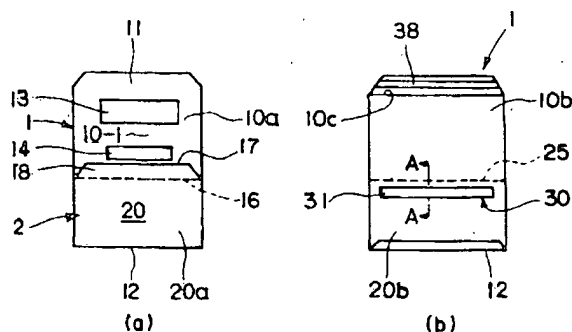
弁理士 平山 一幸 (外1名)

(54) 【発明の名称】 返信用封筒部を有する封筒

(57) 【要約】

【課題】 使用済みの封筒を再度発信に利用し得るようにし、とくに、再利用時の封緘作業の容易化と郵送中の他の書類との接触を抑制し得るようにする。

【解決手段】 本体部１０－１とフラップ１１とを備えた封筒１の底部１２を共用して返信用封筒部２を本体部１０－１内に形成し、返信用封筒部２に、返信用本体部２０と、切り取り線１７と折り目１６，２５とにより画成するフラップ部１８とを設け、フラップ部１８を折り畳んだときこれと接する返信用封筒部２の裏部２０ｂ表面に接着剤を塗布し、接着剤を覆って剥離紙３１を貼付することにより返信用封筒部２を構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップの反対側に位置する上記本体部の底部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する上記返信用封筒部の裏部表面に接着剤が塗布され、この接着剤を覆って、剥離紙が上記返信用封筒部の裏部表面に貼付されていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項2】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップが設けられている上部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する上記返信用封筒部の裏部表面に接着剤が塗布され、この接着剤を覆って、剥離紙が上記返信用封筒部の裏部表面に貼付されていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項3】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップの反対側に位置する上記本体部の底部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだときこの返信用封筒部の裏部表面と接する該フラップ部の背面に、上記返信用封筒部と接着させる接着剤が塗布され、この接着剤を覆う剥離紙が該接着剤を覆って貼り付けられていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項4】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップが設けられている上部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだときこの返信用封筒部の裏部表面と接する該フラップ部の背面に、上記返信用封筒部と接着させる接着剤が塗布され、この接着剤を覆う剥離紙が該接着剤を覆って貼り付けられていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項5】 前記剥離紙が、前記接着剤の全表面を被

覆すると共に、該剥離紙の両側縁と前記返信用封筒部とが接着されていることを特徴とする、請求項1～4のいずれかに記載の返信用封筒部を有する封筒。

【請求項6】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップの反対側に位置する上記本体部の底部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部の上記フラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する返信用封筒部の裏部表面及びこの返信用封筒部のフラップ部の背面に、感圧接着剤が塗布されて構成されることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項7】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップが設けられている上部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部の上記フラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する返信用封筒部の裏部表面及びこの返信用封筒部のフラップ部の背面に、感圧接着剤が塗布されて構成されることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項8】 前記折り目が、折り筋又は印刷による折り線により形成されることを特徴とする、請求項1～7のいずれかに記載の返信用封筒部を有する封筒。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、受取人が差出人から郵送されてきた封筒を、再度発信に利用し得るようにした再利用可能な封筒に関し、とくに、再利用時に好適に且つ迅速に封止し得るようにした封筒部を備えた封筒に関する。この発明は、別に新たな封筒を用意することなく、差出人から発送されてきた封筒を、受取人側で再度いずれかの宛先に対する発信用封筒として利用することにより資源の有効活用に至ることができることに加え、例えば、差出人から受領した種々の文書、調査用紙、アンケート用紙、或いは商品の申込用紙などに対する応答用紙、返信用紙を封入して当該差出人へ返送するのに有用である。

【0002】

【従来の技術】従来、商取引において、取引先に対する各種の書類や商品情報などの郵送や、公的機関から各家庭、事業所などへの調査用紙、アンケート用紙等の郵送などにその書類、用紙の大きさに適した種々のサイズの封筒が使用されている。

【0003】ところが一般に、これらの書類等が受取人側に配達されると、書類等を入れていた封筒は、缺等により開封されて書類を引き出された後は、その役割を終了して破棄される。そこで、郵送等に用いた後に、使用済みの封筒を破棄することなく、受取人側で再度利用できる封筒が考案されている。この考案されている技術として、特開平10-250744号公報（発明の名称「返信用封筒部を有する角形封筒」）には、封筒底部を共通とする返信用封筒部が予め設けられ、受取人が、受信した封筒から返信用封筒部を切り取って、再度利用できるようにした封筒が開示されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記のような、郵送されてきた封筒を受取人側で郵送用封筒として再度使用するには、余白部分を再度利用する封筒形状に切り取って発信用封筒を形成し、これに発信すべき書類等を入れた後、差出人側（最初に受領した前記受取人）で封緘のために糊付け作業を行わなければならない。すなわち、上記返信用封筒部を有する角形封筒にあつては、この返信用封筒部に封緘用の糊を予め付着させておくようにはしていない。その理由は、主として、返信用封筒部の糊付けすべき領域（通常、返信用封筒部の裏部の背面側がこの糊付けする箇所に相当する。）に予め糊が塗布されていると、郵送中に他の封筒等と接着して、郵送等に支障をきたすなどの課題が考えられるからである。また、返信用封筒部のフラップ部の背面側（封筒の表部の背面か又は裏部の背面、すなわち、書類を入れる内部の対向面の何れか一方）に予め糊を付けておくようにしても、封筒に入れた書類に糊が付着して、受取人が書類を取り出すときに書類が破れるというような不都合が考えられる。

【0005】このような課題を解決するために、本発明は、再利用時の封緘作業を簡便にし郵送中の他の書類との接触のおそれを抑制し得る返信用封筒部を有する封筒を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明に係る返信用封筒部を有する封筒は、袋状に形成した本体部とこの本体部に延設したフラップとを備えており、このフラップの反対側に位置する上記本体部の底部或いは上記フラップが設けられている上部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する上記返信用封筒部の裏部表面に接着剤が塗布され、この接着剤を覆って剥離紙が上記返信用封筒部の裏部表面に貼付されていることを特徴とする。

【0007】前記返信用封筒部の裏部表面に塗布される前記接着剤及び前記剥離紙の代わりに、前記返信用封筒

部の前記フラップ部の背面に、前記返信用封筒部と接着させる接着剤が塗布され、前記接着剤を覆う剥離紙が該接着剤を覆って貼り付けられていてもよい。前記剥離紙は、好ましくは、前記接着剤の全表面を被覆すると共に、この剥離紙の両側縁と前記返信用封筒部とが接着されている。さらに、前記接着剤及び前記剥離紙の代わりに、返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだときこのフラップ部と接する返信用封筒部の裏部表面及び返信用封筒部のフラップ部の背面に、感圧接着剤を塗布して構成してもよい。この場合、返信用封筒部の裏部表面の感圧接着剤と返信用封筒部のフラップ部の背面の感圧接着剤とが相互に作用して接着力が生じる。すなわち、一方の感圧接着剤だけでは接着力は発揮し得ないようになっている。また、前記折り目は、折り筋又は印刷された折り線として形成されるのが望ましい。

【0008】本発明の少なくとも一部に返信用封筒部を有する封筒において、返信用封筒部を形成する場合は、差出人から郵送されてきた封筒を、先ず、封筒に表示されている切り取り線に沿って缺等を用いて、返信用封筒部を本体部から切り離す。この際、返信用封筒部の表部に設けられるフラップ部と同じ形で返信用封筒部の裏部に延設されている部分を返信用本体部の開口内に折り込む。これにより、再利用可能な返信用封筒部を形成することができる。この返信用封筒部を使用する場合、返信用本体部に書類等を入れた後、返信用本体部に形成された折り目を境にしてフラップ部を返信用本体部の裏部に折り畳み、返信用本体部の裏部又はフラップ部の背面に貼付されている剥離紙を剥がして、露出した接着剤により封緘する。このように、本発明によれば、返信用封筒部の使用時に、糊を別途塗布する作業を必要としないため封緘作業が容易になるとともに、返信用封筒部を有する封筒が他の封筒や書類等と貼り付く事態を抑制し、返信用封筒部の使用時に、最適な使用状態を確保できる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、図面を用いてこの発明の実施形態を説明する。

（1）一実施形態の説明

図1（a）に示す本実施形態に係る返信用封筒部を有する再利用可能な封筒は、受取人が受領した封筒を開封して書類等を取り出した後、当該受取人が何れかへ向けて文書などの通信書類を発送する時、受信した封筒の一部を用いて通常の郵送用の封筒として利用することができる。すなわち、最初に封筒を受領した者は、送られてきた封筒の余白部を利用して封筒の一部を切り取って再度、小型の封筒を形成することにより、その形成した封筒を用いて、いずれか所望の受取人へ向けて書類等を発送したり、或いは、差出人から受取人が受け取った書類や調査用紙、アンケート用紙或いは商品の申込用紙などに対する応答用紙、返信用紙を、当該差出人へ返却する

ために有効活用される。なお、本発明によれば、受け取った封筒を利用して形成した再利用可能な封筒は、上記したように、最初の差出人に対する返信用の封筒としても或いは他のいずれかを受取人とした通常の封筒の、いずれの場合にでも広く利用し得るが、本明細書では、便宜上、これらの場合を総称して「返信用封筒」と称している。この実施形態に係る返信用封筒は、再利用時に封緘作業を容易にし得るとともに、再利用時の最適な使用状態を確保し得るように構成されており、紙資源の有効活用に寄与し得る。

【0010】本発明の封筒1は、図1(a)に示すように、互いに対向する表部10aと裏部10bとで袋状に形成すると共に上部に形成した開口10cから書類等を入れる本体部10-1と、この本体部10-1の上記開口10cに対して反対側に位置する封止された底部12と、上記開口10cからさらに上方へ突出形成したフラップ11とを備え、さらに、この底部12から本体部10-1の上部に向かう領域に形成した返信用封筒部2とで構成されている。上記本体部10-1の表部10aの返信用封筒部2を除く領域、即ち、本実施形態では返信用封筒部2の上方位置に、受取人名、住所等の宛先が記入される空白部13と、差出人名、住所、電話番号などが記入或いは印刷された差出人表示部14が設けられている。

【0011】上記フラップ11は、本体部10-1の表部10aに一体的に形成されると共に、本体部10-1の開口10cから上方へ延設されていて、裏部10b側に折り曲げることにより開口10cを覆って封緘するようになっており、このフラップ11の背面側には、書類等を入れて郵送するときに封緘作業が容易になるよう、好ましくは予め糊38が塗布されている。

【0012】上記返信用封筒部2は、封筒1の本体部10-1において、書類等を入れる返信用本体部20とフラップ部18とに画成されている。フラップ部18は、返信用本体部20の表部20aに一体的に接続されて上方へ延出して画成された領域を備えている。具体的には、このフラップ部18の領域は、図1(a)に示すように、フラップ部18を返信用本体部20の裏部20bへ折るための境界を示す折り目16と本体部10-1から返信用本体部20を分離する境を示す切り取り線17とにより、画される。

【0013】上記折り目16は、封筒を作製する工程中の、後述する筋押し工程によって、表部10a側から裏部10b側への山折りをし易くするために本体部10-1の表部10aに形成される。折り目16は、後述する図2に示すように、折り筋として、封筒表面から外方へ突出し、筋状に形成されている。なお、この折り目16として、折り筋の代わりに、折り線を表面に印刷することにより形成してもよい。また、切り取り線17は、折り目16から所定幅を隔てた本体部表部10aの上部位

置に実線で台形状に形成されている。

【0014】さらに、図1(b)に示すように、本実施形態の返信用封筒部2には、本体部10-1の裏部10bに、折り目16と同様の折り目25が形成されている。この折り目25は、本体部の表部10aに形成された折り目16と同位置に形成されている。折り目25は上記の筋押し工程によって折り目16を形成する際に同時に筋押しされ得る。この折り目25は山折りをし易くするために本体部10-1の裏部10bに形成され、返信用封筒部2を形成する際に返信用本体部20の開口内に折り込まれるようになっている。この折り目25も、上記折り目16と同様に、筋状に突起した折り筋又は印刷による折り線で形成することができる。

【0015】さらに、本体部10-1の裏部10bにおいて、上記折り目25の下方位置には、接着部30が設けられている(図1(b)参照)。この接着部30は、返信用封筒部2の使用時に、フラップ部18を返信用封筒部2の裏部20b表面と接着させるもので、剥離紙31と接着剤32とで構成され、返信用封筒部2の裏部20bに塗布されている接着剤32が他の郵便物と接着するのを防止するようになっている。このため、図2に示すように、フラップ部18が折り畳まれて接する返信用封筒部2の裏部20b表面に塗布した接着剤32の上から、剥離紙31がこの接着剤32の全面を覆って貼付されている。

【0016】なお、剥離紙31は、図2に示すように、接着剤32が外側にはみ出さないようこの接着剤32の全表面に被覆するが、さらに、この剥離紙31の接着剤32と接しない部分、例えば、剥離紙の上下側縁部33、34が、返信用封筒部2の裏部表面と接着剤35、35により接着される。これにより、剥離紙31が他の封筒などに引っ掛かって容易に剥がれるのが防止される。

【0017】ここで、剥離紙31には、その長さ方向において図3に示す斜線の領域に、剥離可能とするためのシリコン樹脂37が塗布されており、このシリコン樹脂37を塗布した部分で接着剤32が覆われ、剥離紙31のシリコン樹脂が塗布されていない剥離紙の上下側縁部33、34が、接着剤35、35により返信用本体部20の裏部20b表面と貼り合わされるようになっている。そして、返信用封筒部2の使用時に、接着剤35、35により貼り付けられている剥離紙31の上下側縁部33、34が返信用本体部20から引き剥がされることで、接着剤32が露呈し、フラップ部18と接着して封緘される。

【0018】本発明の実施形態は以上のように構成されており、郵送に際し差出人は書類等を封筒1の開口10cから本体部10-1内に差し入れてフラップ11を本体部10-1の裏部10bに貼り付けて封緘し、受取人へ向けて投函する。一方、受取人は、差出人から郵送さ

れてきた封筒1を開封し、書類等を取り出した後、この封筒1を用いて下記のような手順で再利用のため返信用封筒部2を形成する。まず、封筒1の表部10aに描かれている台形状の切り取り線17に沿って鋏等を用いて、返信用封筒部2を本体部10-1から切り離す。すると、この返信用封筒部2には、返信用本体部20の表部20aにフラップ部18と、その裏部20bにもフラップ部18と同じ形状の余剰の延設部分とが残された状態で切り取られることになる。そこで、返信用本体部20の裏部20bに形成されている折り目25を境にして、この裏側の余剰の延設部分を返信用本体部20内に折り込む。上記の作業を行なうだけで再利用可能な返信用封筒部2が形成される。

【0019】このようにして形成した返信用封筒部2を用いて書類等を郵送するには、返信用本体部20内に郵送すべき書類等を入れた後、返信用本体部20の裏部20bに設けられた接着部30の剥離紙31を引き剥がして接着剤32を露出させ、表部20aに延設されたフラップ部18を返信用本体部20の裏部20bに折り畳んで、接着剤32と接着させることで返信用封筒部2を封緘し、受取人へ向けて投函すればよい。なお、郵送に際し、返信用封筒部2の表部20aに、宛先や必要により差出人が明記される。

【0020】次に、上記した一実施形態に係る封筒の製造工程例を説明する。図4に示すように、ロール6aから引き出された封筒の材料となるシートは、印刷機械6bにより、郵便番号欄、切り取り線17、必要により受取人の住所、氏名等が印刷される。図4には、印刷機械6bの部品である版胴6b1と圧胴6b2とが示されている。なお、折り目16、25を印刷による折り線として形成する場合は、上記所定事項とともに、印刷機械6bによりシートに印刷されるが、以下の説明では、折り目16、25が折り筋として形成される場合を例に説明する。

【0021】次に、第1切断部6cで、封筒に用いられない部分の輪郭に沿って切り込みがシートに入れられる。例えば、図5に示すローラ部7は、余分となる部分の輪郭の形に刃（例えば、エッチング刃、ピナクル刃、彫刻刃）7b1が備えられているローラ7bと巻き込んだシートをローラ7bに押し当てるローラ7aとを設け、図6に示す余分となる部分（図6に示す斜線）の周りに切り込みを入れる。なお、図5に示すローラ部7は、図6に示す余分となる部分への切り込みを、一度に縦及び横に入れるようにローラ7bに刃7b1を備えている。ローラ部7を複数設けて、図6に示す余分となる部分への切り込みを入れる工程を複数工程に分けて処理するようにしてもよい。例えば、ローラ部7を二つ配置し、一方のローラ部7で切り込みをシートに横方向（図6に示す矢印Xの向き）に入れ、他方のローラ部7で切り込みをシートに縦方向（図6に示す矢印Yの方向）に

入れることによって、シートの余分となる部分の周囲に切り込みを入れることができる。

【0022】その後、筋押し部6dにより、封筒を袋状に畳む際の折り目（図7（a）に示す一点鎖線1a）をシートに付ける。折り目1aは、例えば図7（b）に示す2つのローラ8a、8bとの間を通過する際に、圧力によりシートに直線状の溝として形成される。なお、シートは、封筒の表面となる面がローラ8bに当たるようにローラ8a、8b間に挿入される。また、折り目16、25（図7（a）に示す二点鎖線1c）は、例えば図7（c）に示す2つのローラ8c、8dとの間を通過する際に、圧力によりシートに直線状の溝として形成される。この際、シートは、封筒の表面となる面がローラ8dに当たるように、ローラ8c、8d間に挿入される。シートがローラ8c、8dを通過すると、封筒の表部10aの折り目16と裏部10bの折り目25となる折り筋が、一度にシートに形成される。なお、図7（c）に示すローラ8c、8dは共に同径のものであり、ローラ8cの表面には回転軸に平行に配置された直線状の凸部8c1が形成され、この凸部8c1がローラ8dの表面に形成された凹部8d1に嵌合するようになっている。筋押しの工程後、図8に示す糊付け部6eのローラベアリング（複数のコロで形成されている。）9aにより、糊タンク9bに入っている糊をシートに移動させ、図7（a）に斜線で示す糊代1bに糊が塗布される。糊付け後、第2切断部6fにて、以後封筒単位に製造処理を施すためにシートに切り込みを入れる。その後、折り畳み部6gは、図9に示すように、折り目1aを境に各封筒の側面を折り畳み、糊により側面が接着されて袋状の封筒が形成される。

【0023】次に、接着部30を封筒1の裏部10bに形成する工程を説明する。テープ処理部6hでは、図10に示すように、ローラベアリング（複数のコロ）9a-1が備えられ、接着剤32が糊タンク9b-1から複数のコロを経由して、表部のフラップ部18が裏部に折り畳まれて接する部分に塗布される。ここで、ローラベアリング9a-1のコロ9a-1aにはスポンジ9a-1bが備えられ、スポンジ9a-1bは、糊タンク9b-1から送られてくる接着剤32を他のコロ9a-1cから吸収して、封筒に塗布するようになっている。なお、スポンジ9a-1bの封筒と接する面の形状は、図3に示す長尺の斜線37に形成される。

【0024】また、テープ処理部6hは、図10に示すように、ノズル9c-1を備えており、ノズル9c-1は先端が二股に形成されて、スポンジ9a-1bにより塗布された接着剤32を挟むように接着剤35を裏部10bの表面に塗布する。なお、スポンジ9a-1b及びノズル9c-1により塗布される接着剤35は、接着剤32と同じ成分或いは異なる成分であってもよい。また、図10には示されていないが、例えば、糊タンク等

からチューブを介してノズル9c-1に接着剤35が供給されるようになっている。次に、テープ加工部6jで、封筒の裏部表面に塗布された接着剤32、35上に剥離紙31を貼付する。ロール6a-1から引き出された剥離テープ（カットされていない剥離紙のテープ）は、封筒に貼り付ける長さに切り取られる。所定の長さ分にカットされた剥離紙31がローラ9dにバキュームにより密着し、このローラ9dが回転して剥離紙31を封筒に貼付する。

【0025】なお、ローラ9dには、例えば、円筒状の曲面には溝或いは穴が形成され、その溝或いは穴に外部の空気が吸い込まれることで、切り取られた剥離紙31はローラ9dに吸着するようになっている。その後、底部12の蓋にも糊付けが、底蓋糊付け部6jで、糊付け部6eにおける糊付けと同様に複数のコ口等を用いて行なわれ、底蓋が本体部10-1に張り合わされて、図1に示す封筒1が完成する。このように製造された封筒1が郵便に使用された後、その受取人は返信用封筒部2を封筒1の本体部10-1から切り取って分離し得る。そして、返信用封筒部2を使用する場合は、書類等を入れた後、剥離紙31を返信用封筒部2から剥がして、フラップ部18を返信用本体部20の裏部20bに折り返して接着剤32に貼り付け、封緘して郵送することになる。

【0026】以上述べたように、本発明の一実施形態に係る封筒1によれば、返信用封筒部2の使用時に封緘を容易に行なえて煩雑な糊付け作業の手間を不要とし、返信用封筒部2の封緘前等に剥離紙31が他の封筒と接して剥がれることで接着剤32が露呈し、露呈した部分が他の書類等と接着するような事態を、剥離紙31が返信用封筒部1の裏部表面と接着されていることで抑制できるので、再利用時に最適な使用状態を確保し得る。また、返信用封筒部2の使用時において、図2に示すように折り目16及び折り目25が筋状に外側へ突出して形成され、それに対称に返信用封筒部2の内側表面に筋状に溝が形成されていることで、フラップ部16や余剰フラップ部を折り畳み易くなっている。

【0027】(2) その他

上記の説明では、接着部30が、封筒1の裏部10bの外側表面に設けられる場合を説明したが、接着部30を、封筒1の表部10aの背面、すなわち袋内部の内側表面であって、フラップ部18の背面となる部分に設けてもよい。このように形成される封筒においては、再利用前に接着部30の剥離紙31が封筒1の内側表面と接着されていることで、剥離紙31が剥がれることで生じ得る封筒に入れられた書類と接着する事態を抑制でき、再利用時に最適な使用状態を確保し得る。

【0028】一方、上記の説明では、返信用封筒部2が、本体部10-1の底部12にある二角を含んだ本体部10-1の底部12を共用する場合を例に説明した

が、本体部10-1の底部12にある一角を含む本体部の一部の範囲を共用するように返信用封筒部2を形成してもよい。例えば、図11(a)に示す封筒1は、本体部10-1の底部12にある一角を含んだ本体部10-1の底部12を共用した返信用封筒部2'を備えている。返信用封筒部2'は、書類等が入る返信用本体部20'を有するとともに、返信用本体部20'を封緘するフラップ部18'、18'を備えている。

【0029】ここで、フラップ部18'は前記一実施形態で示したフラップ部18と同様に、折り目16'（図11(a)に示す点線）と、印刷された切り取り線17'（図11(a)に示す一点鎖線）とによりフラップ部18'の領域が画されるが、この実施形態では、折り目16'と切り取り線17'は本体部10-1の縦方向と横方向の2か所に形成され、従ってフラップ部18'も2か所に形成される。これに伴って、本体部10-1の裏部10bには、図11(b)に示すように、L状の折り目25'が設けられると共に、2か所に接着部30が設けられる。なお、折り目16'、25'は、上記折り目16、25と同様、ローラ8c、8d等で形成された折り筋や印刷機械で印刷される折り線として形成される。

【0030】図11(a)に示す封筒1も、前記一実施形態に係る封筒と同様の手法により製造することができる。なお、接着部30は、封筒1が袋状に形成される前にシートに貼付されるようになっている。このような封筒1によっても、前記一実施形態に係る封筒と同様に、返信用封筒部2'の使用時に封緘を容易に行なえて煩雑な糊付け作業の手間を省ける。そして、返信用封筒部2'の封緘前等に剥離紙31が他の封筒等と接して剥がれることで接着剤32が露呈し、露呈した部分が他の書類等と接着する事態を、剥離紙31が返信用封筒部2'の裏部20b'表面に接着されていることで抑制できるので、使用時に最適な状態を確保し得る。

【0031】さらに、本体部10-1の底部12の一边或いは二辺を共用するとともに、切り取り線や折り目を封筒1等の表部や裏部に印刷して、返信用封筒の領域を画する場合も前記と同様であり、本体部10-1の一边だけを共用する場合には、返信用本体部にはフラップ部を3つ設けることになり、返信用封筒部2の裏部には、各フラップ部と接着する接着部30を3つ貼付することになる。

【0032】図11(a)に示す封筒では、2つのフラップ部18'、18'に対応して返信用本体部20'の裏部に接着部30を2か所貼付したが、いずれか一方の接着部30を貼付せずに返信用封筒部2'を形成してもよく、その場合、接着部30と接着しないフラップ部18'は、糊付けする糊代として用いてもよい。ところで、上記の説明では、封筒1の底部12に返信用封筒部2を設ける例を説明したが、封筒1の上部に返信用封筒

部2を設けてもよい。この場合は、本封筒1の宛先等は封筒1の下半部から底部12周辺に記入される。

【0033】また、上記の説明では、封筒1の表部10aと返信用封筒部2の表部20aとが共に同じ面を示しているが、封筒1の表部10aに、返信用封筒部2の裏部が現れるように形成してもよい。また、上記説明において、図1及び図11に示す封筒1を例として、底部12にある返信用封筒部2を横に長く且つ縦に短い長方形の場合を説明したが、縦に長く且つ横に短い場合であってもよい。上記説明では、折り目16、25としての折り筋を、図7(b)及び(c)に示すローラ8a～8dを用いて形成する場合を例に説明したが、図5に示すようなローラ部7の切り抜き刃(エッチング刃、ヒナクル刃、彫刻刃)7b1の高さを調節して、即ち、シートを貫通しない程度に切り込みを入れる(ハーフカット)ようにして、折り筋を形成することもできる。なお、複数のローラ部7を製造工程ラインに設置し、一部のローラ部7を切り込みを入れるのに用い、残りのローラ部7を筋押し処理に用いるようにしても良い。この場合は、図7に示すローラ8a～8dの設置を省略し得る。上記の説明では、封筒の表部10aに設ける折り目16と裏部10bに設ける折り目25とをそれぞれ折り筋として形成する場合を例に説明したが、いずれか一方を印刷した折り線として形成しても良い。また、フラップ部18を画成する折り目16のみを折り線又は折り筋として形成して、余剰の延設部分の折り目となる箇所には折り筋や折り線を設けることなく形成してもよい。

【0034】また、接着部30を用いることなく、感圧接着剤36を用いて構成することもできる。例えば、図12に示す封筒1は、返信用封筒部2の表部20aに備えられるフラップ部18が裏部に折り畳まれて接する裏部の外側表面に感圧接着剤36aが塗布されるとともに、表部20aの内側表面(背面)で且つフラップ部18が裏部に折り畳まれて感圧接着剤36aと接する箇所感圧接着剤36bが塗布されている。

【0035】このような感圧接着剤36a、36bを備えた封筒1によっても、各感圧接着剤36a、36bが互いに接することでフラップ部18が裏部20bの外側表面と接着し、例えば、感圧接着剤36aだけでは接着力を発揮しないことで、他の封筒との接着する事態を回避できるので、返信用封筒部2の使用時に最適な使用状態を確保できる。また、図12に示す感圧接着剤36a、36bを用いないで他の糊(接着剤)を用いることもできる。

【0036】上記の説明において、封筒1の製造方法として、図4に示すように、ロール6aから引き出したシートに印刷、切り込み、糊の塗布等を順次施していく工程を説明したが、例えば、製袋機の機種によって異なるが、ロール6aから引き出したシートに接着部30を付加した後に再度ロールに巻き取り、別の装置にそのロー

ルをセットして、接着部30が付加されているシートに切り込み等を施して、封筒1を製造してもよい。ところで、上記説明した封筒1に設けられる返信用封筒部2が、例えば、日本で言う定型郵便物として形成されてもよい。上記詳述した以外に、本発明がその趣旨を逸脱しない範囲で、様々な態様で実施できることは容易に分かるはずである。

【0037】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の返信用封筒部を有する封筒によれば、糊付けを行なう手間を省けるので、封緘作業が容易になる。また、返信用封筒の封緘前等に剥離紙が他の封筒や書類等と接して剥がれることで、接着剤が露呈し、他の書類等と接着する事態を抑制できるので、使用時に最適な状態を確保できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)は本発明の一実施形態に係る封筒を示す正面図で、(b)は本発明の一実施形態に係る封筒を示す背面図である。

【図2】図1(b)に示すA-A断面図である。

【図3】本発明の一実施形態に係る剥離紙を示す図である。

【図4】本発明に係る封筒の製造工程の例を説明するためのブロック図である。

【図5】図4に示す封筒製造工程において、封筒の材料となる紙から余分な部分に切り込みを入れる工程を説明するための図である。

【図6】図4に示す封筒製造工程において、封筒の材料となる紙から余分な部分に切り込みを入れる工程を説明するための図である。

【図7】(a)は封筒の材料となる紙に折り目を付ける工程例を説明するための図であり、(b)は折り目を紙に付ける装置を示す図であり、(c)は折り目を紙に付ける装置を示す概略斜視図である。

【図8】図4に示す封筒製造工程において、封筒の材料となる紙に糊付けを行なう装置の概略構成を示す図である。

【図9】図4に示す封筒製造工程において、展開された封筒を袋状に折り畳む工程を説明するための図である。

【図10】図4に示す封筒製造工程において、テープ処理部の処理工程を説明するための図である。

【図11】(a)は本発明の他の実施形態に係る封筒の正面図であり、(b)は(a)の背面図である。

【図12】本発明の他の実施形態に係る封筒の構成例を説明するための、一部を切り欠いた斜視図である。

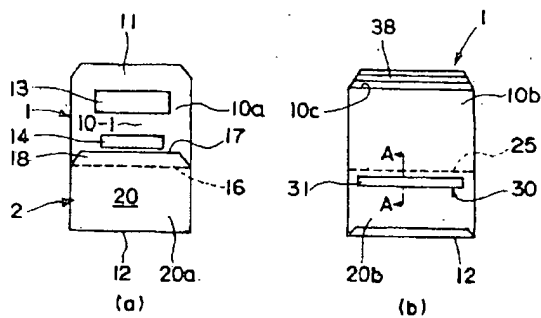
【符号の説明】

- 1 封筒
- 2 返信用封筒部
- 6a、6a-1 ロール
- 6b 印刷機械
- 6c 第1切断部

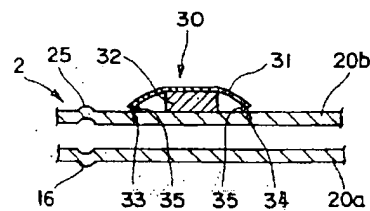
6d 筋押し部
 6e 糊付け部
 6f 第2切断部
 6g 折り畳み部
 6h テープ処理部
 6i テープ加工部
 6j 底蓋糊付け部
 7 ローラ部
 7b1 刃
 9a, 9a-1 ローラベアリング
 9a-1a, 9a-1c コロ
 9a-1b スポンジ
 9b, 9b-1 糊タンク
 9c-1 ノズル
 10-1 封筒の本体部

10a 本体部の表部
 10b 本体部の裏部
 11 フラップ
 12 底部
 16, 25 折り目
 17 切り取り線
 18 返信用封筒部のフラップ部
 20 返信用封筒部の本体部
 20a 本体部の表部
 20b 本体部の裏部
 30 接着部
 31 剥離紙
 32, 35 接着剤
 33, 34 剥離紙の側縁部
 36 感圧接着剤

【図1】

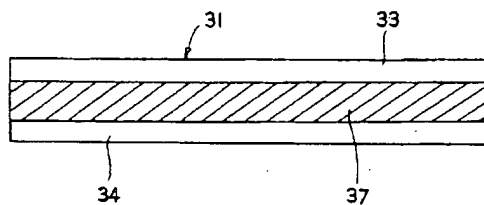


【図2】

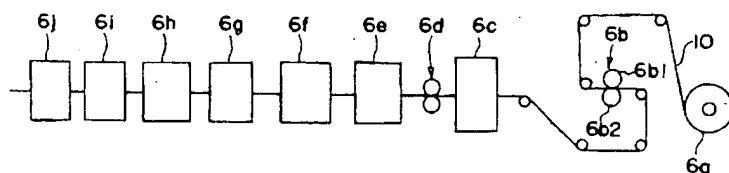


【図5】

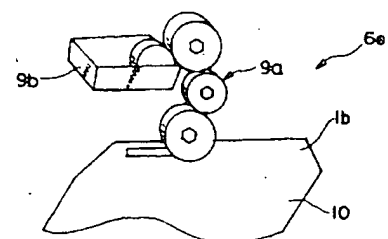
【図3】



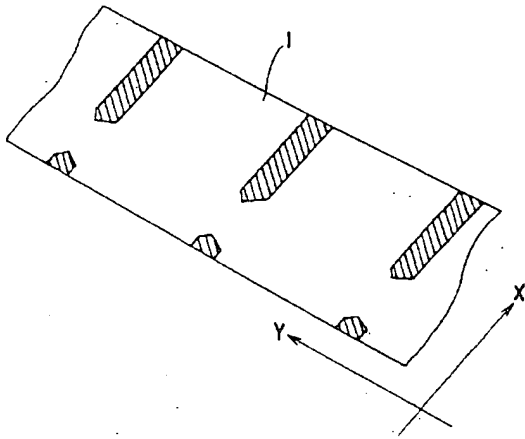
【図4】



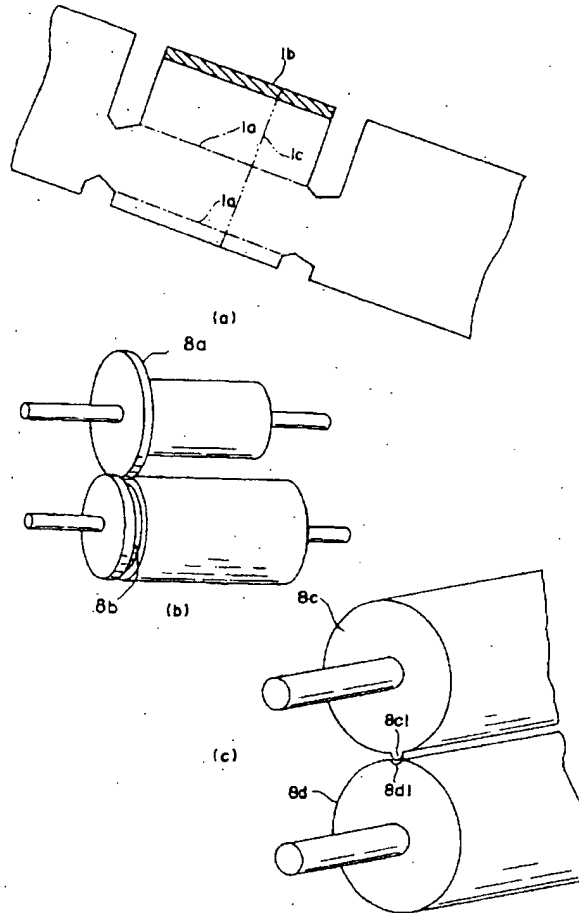
【図8】



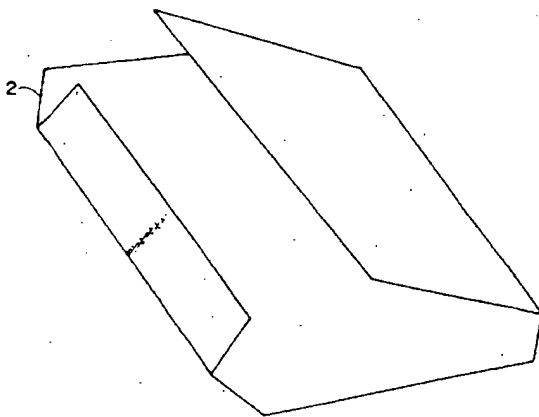
【図6】



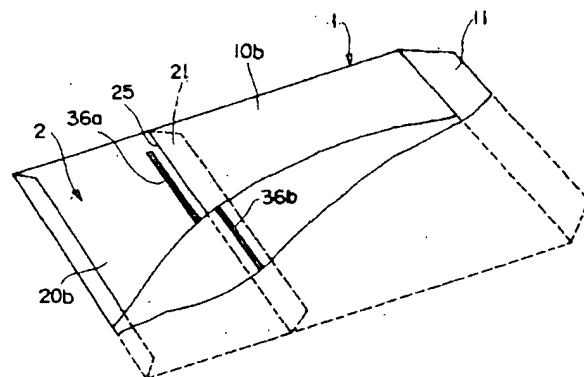
【図7】



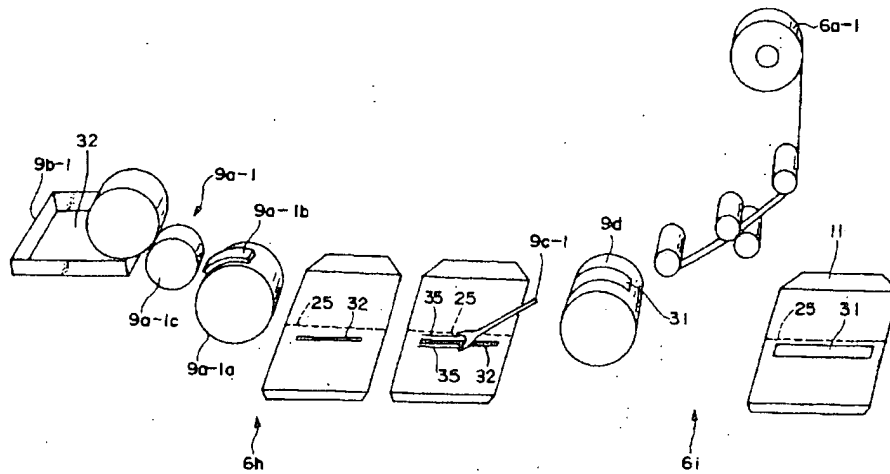
【図9】



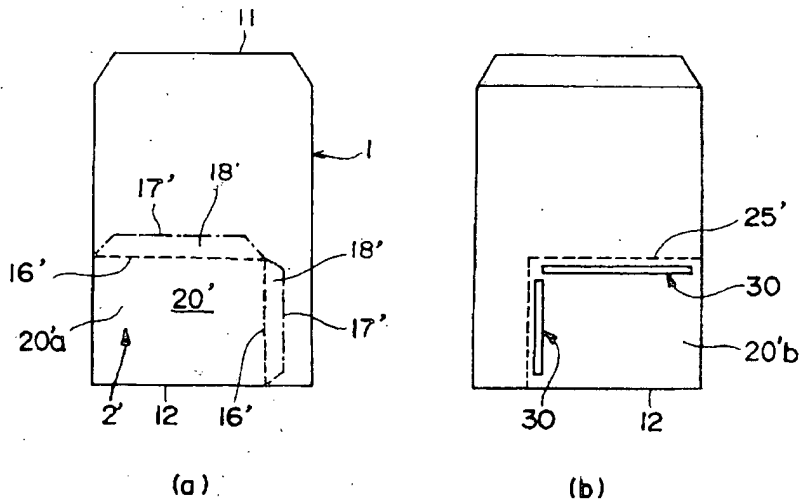
【図12】



【図10】



【図11】



【手続補正書】

【提出日】平成12年11月22日(2000.11.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、上記フラップの反対側に位置する上記本体部の底部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する上記返信用封筒部の裏部表面に接着剤が塗布され、この接着剤を覆って、剥離紙が上記返信用封筒部の裏部表面に貼付されていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項2】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、上記フラップが設けられている上部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する上記返信用封筒部の裏部表面に接着剤が塗布され、この接着剤を覆って、剥離紙が上記返信用封筒部の裏部表面に貼付されていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項 3】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップの反対側に位置する上記本体部の底部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだときこの返信用封筒部の裏部表面と接する該フラップ部の背面に、上記返信用封筒部と接着させる接着剤が塗布され、この接着剤を覆う剥離紙が該接着剤を覆って貼り付けられていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項 4】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップが設けられている上部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだときこの返信用封筒部の裏部表面と接する該フラップ部の背面に、上記返信用封筒部と接着させる接着剤が塗布され、この接着剤を覆う剥離紙が該接着剤を覆って貼り付けられていることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項 5】 前記剥離紙が、前記接着剤の全表面を被覆すると共に、該剥離紙の両側縁と前記返信用封筒部とが接着されていることを特徴とする、請求項 1～4 のいずれかに記載の返信用封筒部を有する封筒。

【請求項 6】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップの反対側に位置する上記本体部の底部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部の上記フラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する返信用封筒部の裏部表面及びこの返信用封筒部のフラップ部の背面に、感圧接着剤が塗布されて構成されることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項 7】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップが設けられている上部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部の上記フラップ部を折り畳んだとき該フラップ部と接する返信用封筒部の裏部表面及びこの返信用封筒部のフラップ部の背面に、感圧接着剤が塗布されて構成されることを特徴とする、返信用封筒部を有する封筒。

【請求項 8】 前記折り目が、折り筋又は印刷による折り線により形成されることを特徴とする、請求項 1～7 のいずれかに記載の返信用封筒部を有する封筒。

【請求項 9】 袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒であって、

上記フラップの反対側に位置する上記本体部の底部を共用して返信用封筒部が上記本体部内に形成され、

上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り線と折り目とにより画成されるフラップ部とを備え、

上記返信用封筒部の上方位置に、差出人名・住所・電話番号等が記入或いは印刷された差出人表示部を有することを特徴とする返信用封筒部を有する封筒。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】前記返信用封筒部の裏部表面に塗布される前記接着剤及び前記剥離紙の代わりに、前記返信用封筒部の前記フラップ部の背面に、前記返信用封筒部と接着させる接着剤が塗布され、前記接着剤を覆う剥離紙が該接着剤を覆って貼り付けられていてもよい。前記剥離紙は、好ましくは、前記接着剤の全表面を被覆すると共に、この剥離紙の両側縁と前記返信用封筒部とが接着されている。さらに、前記接着剤及び前記剥離紙の代わりに、返信用封筒部のフラップ部を折り畳んだときこのフラップ部と接する返信用封筒部の裏部表面及び返信用封筒部のフラップ部の背面に、感圧接着剤を塗布して構成してもよい。この場合、返信用封筒部の裏部表面の感圧接着剤と返信用封筒部のフラップ部の背面の感圧接着剤とが相互に作用して接着力が生じる。すなわち、一方の感圧接着剤だけでは接着力は発揮し得ないようになっている。また、前記折り目は、折り筋又は印刷された折り線として形成されるのが望ましい。さらに、本発明の返信用封筒部を有する封筒は、袋状に形成される本体部とこの本体部に延設されるフラップとを備えた封筒において、フラップの反対側に位置する本体部の底部を共用して返信用封筒部が本体部内に形成され、上記返信用封筒部は、書類等を入れる袋状の返信用本体部と、切り取り

線と折り目により画成されるフラップ部とを備え、返信用封筒部の上方位置に、差出人名・住所・電話番号等

を記入或いは印刷した差出人表示部を有することを特徴としている。